

住所 〒640-8269 和歌山市小松原通り1-3 電話 073-423-2300 FAX 073-423-4000
 E-mail tsuki423@oregano.ocn.ne.jp
 ホームページ http://www4.ocn.ne.jp/~tsuki-hp/ (～は*・-・ト'の@の上の^をshiftで変換)

今月の小児科診察予定

- 11月4日(火)午後、5日(水)全日は時間外対応できません
- 11月23日(勤労感謝の日)は9-19時において診察をおこないます
- 11月24日(日)は12時以降の時間外対応はできません
- 11月12日(火)、26日(火)、は午後から大学診察のため時間外対応できません
- 11月8日(金)、22日(金)は看護学校勤務のため13時から16時まで休診です
- 11月29日(金)は保健所勤務のため13時-17時まで休診です

今月はこんな月

11月はこんな月

11月初旬はまだ本格的な感染症の時期ではありませんが、鼻汁や咳が多くなりはじめます。気温も安定しないため喘息の方は発作がやすく注意が必要です、中甸をすぎると感染性胃腸炎(嘔吐下痢症)を始め、水ぼうそうや溶連菌感染症など本格的な感染症の時期に突入し、一年で患者数が多い時期となってきます。通常はインフルエンザはまだ出現しません、感染症においては予防が大切でうがいや手洗いをしっかりおこなうようにしましょう



今月の顔
美悠ちゃん
とっても良いお顔!!



虫垂炎
 連載!小児科境界領域(この病気は小児科?それとも、)
 いわゆる盲腸と言われる病気で、腹痛で発症することより小児科を受診されるかたも多いので今回は虫垂炎についてお話しします
虫垂炎って簡単?
 よく盲腸といわれますので、診断も簡単と思われがちですが、小児の場合、年齢が低くなる程、診断は困難になります。なぜなら症状も検査所見も年齢が低くなる程、成人程はつきりしなくなり、虫垂炎と区別しなくてはならない病気も多いため、このことは小児科の医師だけでなく外科の先生にも言えることで、小児の病気の中でも判断の難しい病気のひとつとされています
症状は
 腹痛、嘔吐、発熱が三兆候といわれていますが、小児の場合は必ずしも揃っていないこともあり、腹痛の部位も右下腹部痛とは限りません、一番の問題は冬に流行する **おなかの風邪(急性腸炎)**でも同様の症状がでること、小児では腸炎の患者数が圧倒的に多いため判断しずらく、経過をみないと診断できない場合もあり、小児(年齢が低い程)では虫垂炎を疑えば入院の上経過観察することもあります
検査は
 レントゲンや血液検査が成人では有効ですが、小児では決定打にはなりません、超音波検査が有効なこともあります
治療は
 小児の虫垂炎は判断が難しい上に悪化するスピードも早いといわれています、成人では抗生剤の点滴で散らすというつもりですが小児では原則手術になります、しかし小児の緊急手術が可能な医療機関は限られているのが現状です
つまりどうするか
 虫垂炎を強く疑った場合、小児科では小児の手術が可能な施設の外科(小児外科)に紹介し外科の先生の意見を聞くか、もしくは手術可能な小児科に経過観察のため入院していただくこととなります(もちろん虫垂炎ではない場合もあるのですが)盲腸もみれんのか、とお叱りを受けることもあるのですが小児の虫垂炎は成人とは別物とご理解下さい

月山病院小児科では子供達に有益な情報をお知らせするために月一回院内報を発行しております

- バックナンバー** (感染症豆知識)
- 23号 感染症の本格的流行が始まる季節になりましたので、感染症について復習しておきましょう(コピーを差し上げています)
 - 9号 はしか(麻疹)
 - 10号 みずぼうそう(水痘)
 - 11号 手足口病
 - 12号 溶連菌感染症
 - 13号 おたふくかぜ(ムンプス)
 - 14号 百日咳
 - 15号 突発性発疹症
 - 16号 ロタウイルス感染症
 - 17号 風疹
 - 18号 リンゴ病(伝染性紅斑)
 - 19号 アデノウイルス感染症
 - 20号 反復性耳下腺炎
 - 21号 ヘルペス感染症
 - 22号 クループ症候群
 - 23号 水イボ(伝染性軟属腫)

連載!赤ちゃんの処置
SIDSってなに?

このごろSIDSという英語を聞く機会が増えました、日本語では乳幼児突然死症候群といいますが、この病気は間際まで元気であった子供が突然に死亡するという大変怖いもので、亡くなった子供を調べても原因がわからないものを言い、窒息を始めとする事故によるものは除外されます、世界中で問題となっており、各国で研究されていますが原因はいまだ不明です、統計的には、うつぶせね、母親の喫煙、人工乳の子供に多いとされています(原因ではありません)ので、これら避けることによって危険性は減少します、特にうつぶせねは危険度が高いので顔色などが監視できる時以外は避けて下さい

インフルエンザの予防接種に間に合いますか?

インフルエンザは毎年流行時期が異なります、早い年であれば十二月中旬ころに流行が始まりますが、遅い年であれば二月の初旬頃の流行になります、流行の予測はできないうえに、流行が始まってから接種しても効果はほとんどないため、インフルエンザの予防接種の期間は12月下旬から流行が始まるまでとなります、十二月になると他の感染症が流行し始めるため接種が困難になってきます、小児は二回接種であり、できるかぎり体調の良い時期に接種をおわらせる方が良いでしょう、どんなに遅くとも十二月中に終わらせるようにして下さい、また、ワクチンは各医療機関で接種できる人数がほぼ決まっています、当院ではまだ少し余裕がありますが、早めの予約をお願いします

